

「 さ さ え 」

2006年10月発行 情報誌 第17号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所：福岡県田川市伊田4395（福岡県立大学生涯福祉研究センタ - 内）

TEL / FAX： 0947 - 42 - 2286

E - mail npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回（1月・4月・7月・10月）発行しています。

福祉用具はあなたの自立をさえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

床ずれ防止ハイブリッドエアマット「ピーウェーブ」

P-Wave

自立支援と快適さを求めて
いよいよ、販売開始！



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育んでいきたい・・・」

NPO 福祉用具ネットのロゴマークは明石尚典さんのデザインです。

産学官協同事業を推進しましょう

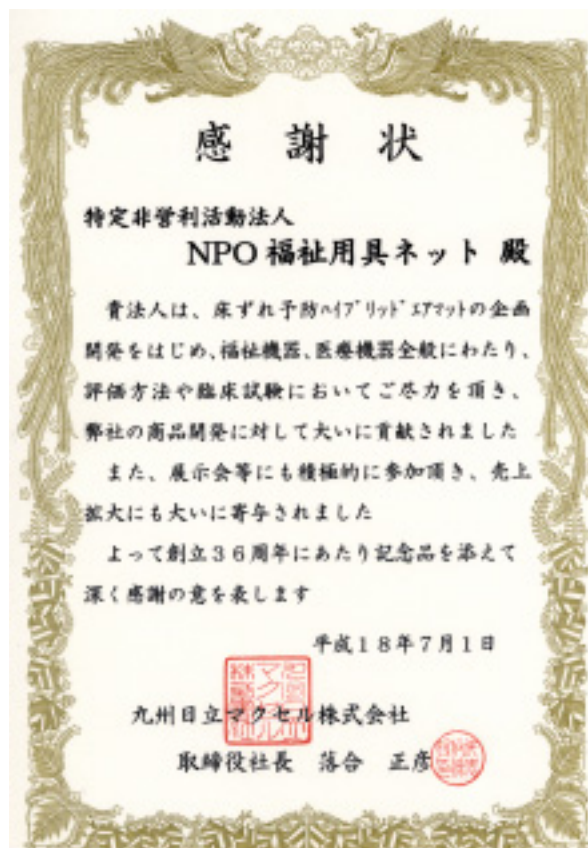
理事長 豊田謙二（福岡県立大学教授）

本年7月7日に、私と大山事務局長が九州日立マクセル（株）の36周年記念式典に招かれ、「感謝状」を頂戴するという栄誉を受けました。「感謝状」は本法人に向けられるものであり、代表して厚く御礼を申し上げます。

ご存知のように、九州日立マクセル（株）は日立グループに属し、炭鉱閉山後の地域再生の切り札として、1970年に旧方城町に招かれて現在地に立地したものです。当社はシェーバー・ドライヤーなどの理美容製品を始めとして、日常生活の利便性や快適性を支援する製品開発において、国境を越えた事業を展開しています。

情報誌『ささえ』でもすでに紹介しましたように、自立支援型床ずれ防止マット「P・Wave（ピーウェーブ）」は、本年に販売を開始しています。その研究・開発にあたっては九州日立マクセル（株）に製造のプロセスを担当していただき、製品評価では県工業試験場、福岡県立大学に担当いただきました。研究開発・製造・評価そして販売にいたるまで、いわゆる産学官の賜物であります。東京国際福祉機器展や西日本国際福祉機器展、そして「P・Wave」の納品先などで得ている高い評価が、販路開拓の力になりますようにさらに一層のご助力を賜りたく存じます。

さて改正介護保険法が施行され、福祉用具・住宅改修事業の現場に大混乱を引き起こしています。本法人は、これまでも福祉用具の活用と住環境整備による自立的・快適な生活づくりを支援してきました。そして、多くの事例研究を通じて福祉用具活用のその意義と有効性を示してきました。今後は福祉用具の活用による自立度向上を科学的に立証できるように、産学官の人材・技術・情報を協働しうるシステムを築きたいと思います。ご教示とご支援をお願いする次第です。



左から大山 豊田理事長 落合社長



一緒に表彰された方との記念撮影

高齢者に多い病気と予防対策（シリーズ3）

社会保険田川病院院長 吉村 恭幸（NPO福祉用具ネット理事）

平均寿命 90 歳の時代に向っています。しかも健康寿命を長くすることが大切です。

気力や精力の衰えを少なくし、またシリーズ で述べました「がん予防 14 カ条」ですぐに実践しやすいものは食生活です。日本人の食生活が欧米化されるにつれて、肥満も増えました。その結果、がん、心臓病、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病が増加してくるようになりました。

平成 18 年度の厚生労働省の大きな目標として、内臓脂肪症候群を少なくしようとしています。男性の腹囲 85cm 以内、女性の腹囲 90cm 以内に保つよう呼びかけています。

「健康寿命を延ばす食生活 9 のヒント」(表 1 を参照して下さい。)

ヒント 1 : 3 食のバランスをよく取り、欠食は絶対避けましょう。1 日 30 種類の食品を食べることが、体を健康に保つために必要なことです。2 食では食べる種類が少なくなります。食べる量の偏りにより、1 日の脳の働きや筋肉の力を充分に出すことはできなくなります。

ヒント 2 : 油脂類の摂取が不足しないように注意しましょう。脂肪の質も食物性脂肪 2 に対し、動物性脂肪 1 となるようにすることが大切です。サラダ油も使いましょう。

ヒント 3 : 動物性たんぱく質を十分に食べましょう。青魚、卵、チーズ等も食べましょう。

ヒント 4 : 肉と魚の摂取は 1 : 1 程度になるように食べましょう。

ヒント 5 : 肉は様々な種類を摂取し、偏らないようにしましょう。牛肉だけでなく豚肉も食べましょう。

ヒント 6 : 牛乳は毎日 200ml 以上飲むようにしましょう。牛乳内のカルシウムは吸収しやすく、骨が強くなり骨折を起こしにくくなります。

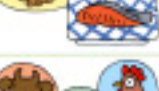
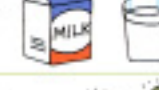
ヒント 7 : 食欲が無い時はおかずを先に食べ、ご飯の方を残すようにしましょう。

ヒント 8 : 会食の機会を豊富に作りましょう。複数の人と話しをしながら、よく噛む様にしましょう。少ないものでも吸収しやすく、脳の働きをはじめ、活力が出やすくなります。

ヒント 9 : 噛む力を維持するために義歯は定期的に点検を受けましょう。

よく噛むと脳への血流も良くなり、脳の働きをよくします。

表 1

ヒント 1	3食のバランスをよくとり、欠食は絶対避ける。	
ヒント 2	油脂類の摂取が不足しないように注意する。	
ヒント 3	動物性たんぱく質を十分にとる。	
ヒント 4	肉と魚の摂取は 1 : 1 程度になるようにする。	
ヒント 5	肉はさまざまな種類を摂取し、偏らないようにする。	
ヒント 6	牛乳は毎日 200ml 以上飲むようにする。	
ヒント 7	食欲がないときはおかずを先に食べ、ご飯は残す。	
ヒント 8	会食の機会を豊富につくる。	
ヒント 9	かむ力を維持するために義歯は定期的に点検を受ける。	

健康寿命を延ばす
食生活 9 のヒント

「お勧めの食品」(表2)

玄米・胚芽・全粒粉：これらは食物繊維が豊富で、抗酸化物質も含まれています。食物繊維の多い米やパンには、太りにくいという特徴もあります。

大豆・豆製品：食物繊維や抗酸化物質、カルシウムのほか、中高年女性の健康によいといわれるイソフラボンも多く含まれています。

緑黄色野菜：抗酸化物質や食物繊維・カルシウムを含んでいます。かぼちゃなど高エネルギーな物は取りすぎに注意しましょう。

海藻類：食物繊維やミネラルが豊富で、低エネルギーです。ワカメやひじきには抗酸化物質も含まれています。

根菜類：緑黄色野菜と比べるとエネルギーが低く、量を取りやすく食物繊維も多い食品です。

きのこ：食物繊維が豊富で低エネルギーです。一部には抗酸化作用があるといわれています。

果物：代表的な抗酸化食品です。ただし、高エネルギーなので食べ過ぎには注意が必要です。

「科学的な根拠に基づくがん予防」の食生活とがん予防について、米国立ガン研究所が中心となった「デザイナーフーズ計画」として、がん予防効果の大きい食べ物 48 種類を選びました。(表3)

その食べ物を重要度の高い順に上からピラミッド状に並べたものを「デザイナーフーズピラミッド」として発表しています。

「デザイナーフーズピラミッド」

最上段のニンニク・キャベツ・大豆・カンゾウ・ショウガ・セリ科植物(ニンジン、セロリなど)は最重要度が高く、がんの予防に効果が大きいことを表しています。

ピラミッドの2段目のタマネギ・茶・ターメリック・全粒小麦・亜麻・玄米・柑橘類(オレンジ・レ

モンなど)・ナス科植物(トマト・ナス・ピーマンなど)・アブラナ科植物(ブロッコリー・カリフラワーなど)や、3段目のメロン・バジル・タラゴン・カラス麦・ハッカ・オレガノ・キュウリ・タイム・アサツキ・ローズマリー・セージ・ジャガイモ・大麦・ベリーなどの食品は前述しましたように、「お勧めの食品」に含まれています。今後の食べ物の食材として選んで下さい。(次号へ続く)

表 2

お勧め食品



表 3



今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」(その8)

九州日立マクセル(株)新分野開発PT長 坂田 栄二(NPO福祉用具ネット理事)

福岡県立大学の福祉用具研究会から独立した「NPO」の体裁も整い、最大の難問だった多額の開発資金も、県の産炭地域振興センタの支援で乗り切れる目処が立ち、いよいよ本格的な活動が始まりました。今号から、いよいよ波乱万丈の「福祉用具の開発」の現場をご紹介します。

火中の栗を拾う会員は誰か？

まず最初の開発テーマは「床ずれ防止用エアーマット」です。

もちろんNPO単独で開発はできない。これからは実際に多額の「お金」をかけて人が動き、物を作り、お客様に評価してもらうという厳しい現実が待っています。これに耐えられるメンバーが必要なのです。決して興味本位、片手間ではできません。決められた期間にしっかりとした成果を挙げることが、NPOの会員だけでなく、県、社会から求められるのです。

しかし、NPOの正社員は事務局長一人しか居ませんので、開発メンバーはNPOの会員から選ぶことになります。勿論、会員は本来の自分の仕事を持っており、この開発の仕事と両立させなければなりません。そんな自由人は果たしているのでしょうか。

誰と組めばこの厳しさを乗り越えて、実現できるのかを悩んだ豊田理事長は、大山事務局長に、「これからは大変だぞ。もう、夢を語っている場合じゃなくなった。火中の栗を拾ってくれるようなしっかりと着いて来てくれる人はおるかなあ・・・？」

と不安な顔をそのままさらけだして見せた。それほど深刻に悩んでいたのだろう。

しかし、大山は、動じた素振りを見せなかった。目の前のファイルを開き、きちんとプリント出力された1枚の紙を差し出し、

「これでどうですか？研究会のときにやる気満々の人にめぼしをつけていた人たちです。もう声をかけていますので、たぶん大丈夫と思いますよ。」

あまりにも手際よさに、豊田理事長も、安堵した様子でプリントを見ながら、

「うん、うん。これなら、まかせられるよな。早速みんなを集めよう」

いつもの楽天的な調子に戻って、ニコッと笑った。

「床ずれ」を知らない開発メンバー

ここは、県立大学の生涯福祉センターの狭い会議室。集まったメンバーは、総勢(?)4名。黒板に向かって喧々諤々(けんけんがくがく)。黒板には縦長い四角が描かれている。これがエアーマットか？

そこへ大山事務局長が入ってきた。と思いきやそのまま立ちすくんでいる。

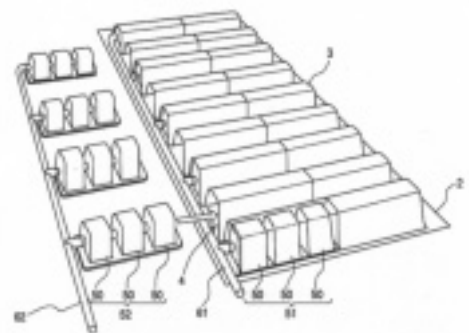
「なんね、そりゃ・・・」

そこまで言うのがやっとなので、黒板に見入ったままである。

「すごいのができるぞ！」

これまで何度か登場してきた「開発おじさん」である福祉SDグループ代表の松原は、チョークをつまんだ手を上に上げ、得意そうに振り向いた。そのときの構造が右図である。

小さなセルをチューブでつなぎ、ポンプのエアを切り



替えて、隣同士のセルを交互に膨らませたり縮めたりするものである。セル1個当たりの空気量が少なく細やかな圧力調整が出来、身体の丸みになじみやすい効果があり圧力分散効果も高いことが予想される。

「どこがすごいんね。そんな高そうなものを誰が買うんね。」

そう言うなり、部屋を飛び出した大山が沢山の写真を持って戻ってきた。その写真を机の上に広げながら、
「あんたら、床ずれってどんなものか見たことあるんね？」

その写真は、皮膚がなくなってえぐり取られたような深刻な床ずれの写真であった。

「できた人は辛いんよ。介護する人はもっと大変なんよ。忘れたらいけんよ。」

集まった開発メンバーは、誰も床ずれになったこともないし、見たこともなかった。彼らが知っているのは他社のカタログ写真程度である。大山は写真を指差しながら、続けた。

「私たちは、豪華なマットが欲しいんと違う。床ずれのできた人も寝心地よく寝られ、二度と床ずれができないようにしてあげ、しかも介護する人も楽になる自立支援ができるような、そんなマットが欲しいんよ。」

うつむき加減でこれを聞いていた松原は、

「寝心地がよくて、自立支援ができるのは矛盾しているんじゃないか？寝心地がよければ寝たままになって自立しなくなるし、自立ができるようなマットは硬くて寝心地が悪いんと違うか？1つのマットで両方を満足するようなものは出来ないよ。」

と鋭く大山を突くが、大山も自分の理想を譲らない。

「それを考えるのが、あんたらの仕事じゃないの。しっかり考えてよ！」

松原は、じっと黙ったまま黒板のほうを向いている。

「とにかく一度作ってみたいとわからんじゃないか？」

この消え入りそうな言葉が、唯一の松原の反撃であるが、

「そんなお金は、無いわよ。余裕は無いんだから。」

「何とか安く作るから・・・」

粘り腰の強い松原は、温和そうだが、なかなか「判った！」とは言わない。大山は右隣にいた甘村に向かって、

「どう思う？売る人の立場は判るでしょう！これで売れると思う？」

甘村は、リネンサプライの会社で福祉介護部門を担当している。最も現場に近い立場にあるから大山が意見を求めたのだろう。

「大山さんの言う事も判るよ。おまけに高価で複雑な構造になればレンタルするときに、洗浄や消毒が面倒になるからね。シンプルで安いのがいいよ。」

安ければ寝心地と自立支援は両立できないと反論する松原と、安くて扱いやすい商品が欲しい甘村との両方の意見を、この議論に火をつけた立場の大山はわからないわけでもなかった。

しかし、ここで「好きにやりなさいよ」と投げ出すわけもいかない。短期間に商品を纏上げたかった。今度は左隣の坂田に、

「どう思う？」

優柔不断の坂田は、

「開発の立場として、やっぱり作ってみたいと判らんよ。それが試作というもんだよ。松原さん！図面を書くときに寝心地と自立支援を考えに入れてもう一度練り直してみようよ。」

大山はようやくイスに座った。それでもまだ納得できていない様子だった。

それから1ヵ月後、NPOに透明なお椀状のセルが沢山並んだシートが届いた。(次号へ続く)

P・Wave（ピーウェーブ）情報

■ 第33回東京国際福祉機器展(9月26日から29日)にP・Waveを出展!

平成15年度からP・Waveを出展しました。今年は日立システムグループ内のブースに九州日立マクセル(株)からの展示となります。勿論、事務局からも応援に行きます。結果は次号でご報告させていただきます。

■ 「西日本国際福祉機器展」に出展いたします。見に来て下さい。

今年の西日本国際福祉機器展にはNPO福祉用具ネットの会員と福岡県立大学福祉用具研究会と協力して出展することになりました。

開催日:平成18年11月9日木曜日から11日土曜日までの3日間

会場:西日本総合展示場

展示内容: P・Wave、洗髪シャワー・介護シャワーを九州日立マクセル(株)の協力を得て出展いたします。また、福岡県立大学福祉用具研究会とともにNPO福祉用具ネットの会員からは、(株)YMCから触らないスイッチ「てんとうむし物語」と飯塚研究開発機構内八夢会から「歩行器」も一緒に展示いたします。

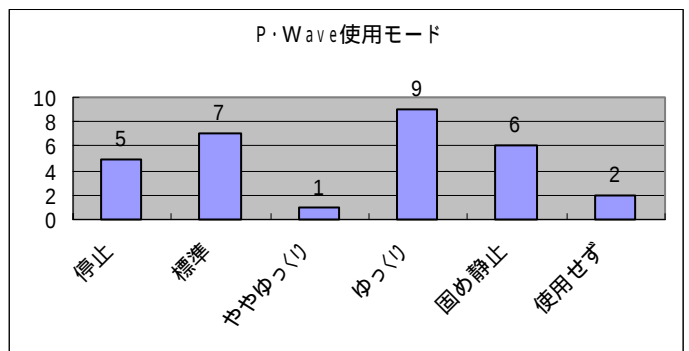
■ P・Waveの1年点検結果も良好!

当NPOでは、平成17年の4月に開発商品P・Waveを飯塚市特別養護老人ホーム「筑穂桜の園」に納品して以来、ずっと経過を見守ってきました。去る6月21日・22日の2日間をかけて1年点検を実施しました。床ずれ発生事例は全くなく、施設のスタッフの皆様の日々の介護力とP・Waveの効果が床ずれ防止用具として重要な役割を果たしている結果だと思います。

床ずれの局所の要因は、摩擦・圧迫・ずれ・湿潤であり、全身的にも栄養状態や麻痺・浮腫・可動性など多くの原因がありますが、体圧分散という介護力をサポートする一助になっていることはいままでのことです。施設スタッフの日々の介護力の要素も大きく、「筑穂桜の園」ではベッド上に寝たきりにさせている事例が一例もないという結果は床ずれ発生を防ぐという結果に大きく結びついていると考えられます。

本施設は開設当初からP・Waveを使用しているために使用前のADLと比較することは困難ですが、今までのモニターの声としても「介護しやすいマット」という評価をいただいています。使用モードを身体状況(リスク)によって使い分けられるということもスタッフに浸透して活用されているようでした。P・Waveは停止モードでも体圧分散は優れております。また積極的なリハビリを必要とする場合は固め静止を活用すると便利です。リモコンのモードの設定変更が簡単にできることや停電やコンセントが抜けてもエア漏れがなく底付きをしないので安心して使用できます。

右の図は「筑穂桜の園」での1年点検時のP・Wave使用モードです。



■ P・Waveは現在、大学病院でもモニターをしていただいています。

その結果大変好評をいただいています。既にレンタル対象品目としても取り扱っています。快適性と床ずれ防止を兼ね備えた床ずれ防止用マットです。

是非一度使ってみてください。

事務局より



■ 「住宅改修についての研修会」の受講者募集

日時：平成18年12月9日土曜日 13時受付 13時30分から15時30分

場所：福岡県立大学予定

内容：「トイレ・浴室の住宅改造の基本」 講師 佐賀大学医学部助教授 松尾 清美氏

受講料：正会員1,000円 賛助会員2,000円 非会員3,000円 学生500円

申込方法：規定の申込用紙で事務局にファックスをして下さい。

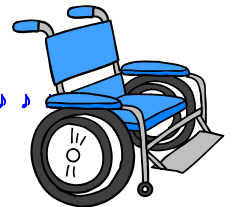
■ これまでの主な活動の報告

* 7月13日木曜日 高齢者生活研究所所長、排泄総合研究所代表浜田きよ子先生から「排泄ケアについて」の講義をしていただきました。受講者は139名でした。

* 7月26日(株)日本ケアサプライより電動ベッド(3モーター 一式)1台を寄贈していただきました。また、福岡県立大学にも電動ベッド8台を寄贈していただくように本NPOがその手配と設置をいたしました。

* 8月19日・20日「包括的高齢者運動トレーニング研修会」(福岡市で開催)を豊田理事長と大山が受講しました。介護予防機器を使った筋力向上トレーニングの意義や実践について学びました。これからの福智町地域再生計画における介護予防への取り組みに役立てたいと思います。

* 8月21日から9月7日までの12日間、福智町高齢者体力測定を210名の方に実施いたしました。姫路独協大学助教授村田 伸先生に調査計画を立案していただきました。実際の調査にあたっては、村田伸助教授と大田尾助手を中心に、福智町役場、福智町社会福祉協議会、長崎大学助教授村田潤先生、さらに豊田理事長、NPO 福祉用具ネット会員、福岡県立大学院生などたくさんの皆様にご協力をいただきました。結果を現在分析中です。ご報告の機会を計画したいと思います。



■ 「福智町自立支援フェスティバル」を開催！お待ちしております。

日時：平成18年10月15日(日曜日) 9時30分から15時(受付9時から)

主催：NPO福祉用具ネット 福智町 福岡県 場所：福智町方城地域交流センター・方城児童センター

内容：9時30分～11時 基調講演「いかに生きるか」佐賀大学医学部助教授 松尾清美氏

10時～15時 福祉用具展示・体験・相談

展示内容：福祉車両 最新型車いす・電動4輪車・床ずれ防止用具・リフト・入浴関連用具

排泄関連用具・介護予防機器やシューズなど介護用品多数

体験コーナー：リフト体験・車いす試乗体験・トランスファーボードの使い方実技指導

・床ずれ防止マット寝心地体験

相談コーナー：理学療法士などの専門職が福祉用具に関する相談をお受けします

【福智町福祉用具展示会にご協力いただいた企業・事業所 (18社)】

麻生メディカルサービス(株)アップルハート飯塚店、介護サービスわかば、太陽セランド(株)、(有)三電(有)直方メディカルサービス、(有)ハートフルはしもと、(有)フィット福祉用具サポートセンター、(株)日本ケアサプライ、(株)モリトー、(有)アプト、九州日立マクセル(株)、福祉SDグループ、ラックヘルスケア(株)、(株)オーエックスエンジニアリング、福岡日産自動車(株)田川店、トヨタカローラ博多(株)田川店、福岡トヨペット(株)

以上